

2025年度 メリー★ポピンズ 蕨北町ルーム 事業計画書

Ⅰ. 基本方針

現在、蕨市の人口は増加傾向にあるものの、総出生数は減少傾向にあります。この人口増加の主な要因は外国人の増加によるものであり、出生数に占める外国人の割合も比例して増加しており、特に0～5歳児の人口は平成30年をピークに減少している一方で、幼児人口に占める外国人の割合は増加を続けています。市全体の将来人口を推計でも、外国人人口の増加を考慮した結果、令和11年までに乳幼児全体の数は減少しながらも、外国人の割合は増加することが予測されています。

自園においても園児の約1/3が外国籍の子どもたちです。今後も外国籍園児の増加が見込まれることから、子どもたちだけでなく、保護者のケアを含めた支援がますます重要になると考えます。また、子どもたちが未来を担うための多様な体験ができる場が不足していると感じています。

そこで自園では、「子どもの最善の利益」を第一に掲げ、子どもたちに豊かな体験の機会を提供することを目指します。この取り組みは、日本人の子どもだけでなく、外国人の子どもにとっても等しく必要なものと捉え、自園の基本理念として位置づけます。

- ・ 「子どもの生活力の体得」
- ・ 「食育環境の充実」
- ・ 「学びと実践 ～Trial & Error～」
- ・ 「子育て支援の推進」

- ① 多様な体験を通じて、すべての子どもたちが「生きる力」を育む。
また、子ども自身が経験を選択できる物的環境を整え、成長に応じた計画の策定と実施を行う。
- ② 調理士・栄養士だけでなく保育士を含めた全職員が協力し、食育環境の改善に取り組む。
魚や肉の解体や食品加工（梅干し・味噌作り等）を体験する事で、子どもたちが食材や食の循環に興味を持ち、楽しく食事をすることに繋げていく。
- ③ 保育士も子どもと同様に学び続けることが重要であり、研修などに積極的に参加し、知識を深める。将来のキャリアアップを見据えた目標を設定し、主体性を持って行動することで、保育の質を向上させる。
また、若手職員の模範となる主任・リーダー職の育成にも力を入れる。
- ④ 自園を地域に知ってもらうため、園開放やどろんこ祭りなどの行事を通じて来園を促す。
また、職員が積極的に地域の方々へ声をかけ、子育て支援の輪を広げていく。
さらに、保護者や地域の方々と子どもの成長を共有し、共に育ち合う関係性を築く。

〈Ⅰ〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤を培う。
	実践予定内容	・日課や基本活動の重要性を理解し、継続できるよう振り返りと改善を繰り返す。
2	計画・ねらい	・日々の保育の中で豊かな感性と表現力を育む保育計画を立て、保育内容を充

		実させる。
	実践予定内容	・子どもの好奇心を引き出す保育計画を立案し、その為の学びを継続的に深める。
3	計画・ねらい	・子どもの発達援助、生活援助の知識を向上させ、保育の環境構成を充実させる。
	実践予定内容	・環境設定について職員同士が話し合う場を適宜設け、常に「子どもの発達」に合わせた環境を作れるようにする。
4	計画・ねらい	・子どもも大人も主体性のある行動が出来るようになる。
	実践予定内容	・保育スキルの向上を常に意識し、Trial & Errorの精神で積極的に何事にも取り組んでいく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者との円滑なコミュニケーションを通じて、個々の子育てに寄り添い、支援する。
	実践予定内容	子どもの成長を共有し、何が最も大切かを保護者と共に考える機会をつくる。
2	計画・ねらい	日本での就学を考えている保護者が多いため、不安を出来るだけ軽減し、学校との連携を強化する。
	実践予定内容	外国籍の保護者が多く、国ごとに異なる言葉や文化・育児感があることを保育者全員で理解し共有する。また、保護者を子育てのパートナーとして尊重しつつ、保育者は専門家として「子どもの最善の利益」を第一に考え、各家庭に応じた支援を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育の専門性を生かし、子育て中の保護者を積極的に支援する。
	実践予定内容	園での行事やイベントが、家庭でも楽しめる内容となるよう計画し、多くの方に周知する。
2	計画・ねらい	外国人の保護者が気軽に来園し、子育ての悩みを話せる場を提供する。「何度でも来たい」と思える園づくりを目指す。
	実践予定内容	「ちきんえっぐ」や園だよりを活用し、活動内容を発信し、関心を持ってもらう。 散歩や青空保育の際、参加者に積極的に声をかける。 より多くの人に情報を届ける方法を職員間で話し合い、広報活動を工夫する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	3年後・5年後の自分の姿を具体的に想像し、目標を設定する。
	実践予定内容	自己分析を行い、足りない部分や課題を明確にする。 目標を視覚的に確認できる場所に掲示し、自己評価と改善を繰り返しながら

		<p>らスキル向上を目指す。</p> <p>定期的な個別面談を実施する。</p>
2	計画・ねらい	園内研修の講師を職員が努め、職員全体のスキルアップを図る。
	実践予定内容	<p>・職員が自発的に学んだことを共有する機会を設け、学び合い、成長し合える環境をつくる。</p> <p>・会議やミーティングを活用し、職員が積極的に発言・発表できる雰囲気を醸成する。</p> <p>・職員自らが講師となりアウトプットすることで、知識の定着、指導力の向上、自己肯定感の向上を促す。</p> <p>・職員の学びたい意欲を尊重し、研修を受けやすい環境を整える。</p>
3	計画・ねらい	主任・リーダー職の職員の育成を強化する。
	実践予定内容	<p>・リーダーに必要なスキルを習得し、若手職員の指導・育成ができるよう支援する。</p> <p>・園内研修や他園研修を活用し、実践的な経験を積む機会を増やす。</p>

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	<p>生き物の世話を通して、命の大切さを学ぶ。</p> <p>魚や肉の解体だけでなく、様々な体験を通して「命をいただくこと」への理解を深め、食への興味関心を育てる。</p>
	実践予定内容	<p>・生き物は適切な環境でしか生きられないことを伝え、子どもたちと一緒に「どうすれば良い環境をつくれるか」を考える機会を設ける。</p> <p>・多様な体験を提供できるよう、保育者は綿密に計画を立て、準備を徹底する。</p>
2	計画・ねらい	<p>給食残渣70%減、持続。</p> <p>給食残渣の計測を通じて、職員全体で現状を把握し、残渣削減の意識を高める。</p>
	実践予定内容	<p>計測結果をもとに、数値の削減だけでなく、子どもたちの「食への興味・関心」を高めるための工夫を重ねる。</p> <p>職員間でミーティングを定期的に行い、改善策を共有しながら取り組む。</p>

〈6〉職員の自己向上心を上げる

1	計画・ねらい	職員の目標を明確化し、全員が質の向上を目指しながら進捗を確認できる体制を整える。
	実践予定内容	<p>・毎月、個人目標を立て、園会議で振り返る機会を設ける。</p> <p>・定期的な面談を実施し、職員のメンタルケアを行う。</p> <p>・外部研修の自主参加を推奨し、スキルアップを支援する。</p>
2	計画・ねらい	Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）のPDCAサイクルを活用し、日々の保育を継続的に改善する。
	実践予定内容	<p>・ご対応子どもの興味や発想を尊重し、適切な環境設定（ゾーン保育）を行い、主体的な活動を促す。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・「Trial and Error」を合言葉に、失敗を恐れずにチャレンジする文化を育む。 ・職員の経験年数に関わらず意見を交換できる場を設け、職員間のディスカッションを活性化する。 ・PD（計画・実行）は強く進められているが、CA（評価・改善）が弱い点を意識し、職員間でしっかりと共有・実践する。
--	--	--

〈7〉要支援児への対応

1	計画・ねらい	要支援児や障害児を含め、さまざまな課題を抱える子どもたちに適切な支援ができるよう、職員の知識向上を図る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実を図るとともに、外部研修にも積極的に参加し、専門的な知識を深める。 ・学んだ内容を職員間で共有し、全員が一貫した対応ができるようにする。
2	計画・ねらい	関係機関との連携を強化し、保護者への支援を充実させる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時の対応だけでなく、個別面談を定期的に行い、保護者と丁寧に向き合う機会を増やす。 ・保護者と協力しながら、子どもにとって最善の支援を提供できるように努める。

2.施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
8人	8人	8人	8人	8人	40人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	6人			調理員	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	栄養士	1人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返り、次月目標設定、ディスカッション グループワーク、園内研修（エピソード研修） 他
給食運営会議	月1回	調理、食事提供の改善案、ディスカッション クッキングの企画、打ち合わせ 他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証 他
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについて、その対応 他
クラス会議	適宜	指導計画の適性、子どもの発達、援助について 他
各係・担当会議	適宜	業務の見直し、改善、企画 他

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	議題協議、グループ全体の伝達事項、共有事項の周知
施設長勉強会	月1回	保育園の課題を検討しながら、法人・社会全体のスキルアップを図る
食育会議	年4回	課ごとで給食業務改善
保健会議	年4回	課ごとで園児健康管理業務改善
子育ての質を上げる会議	月1回	保育園の課題を検討しながら、子どもの発達を学ぶ機会とし、職員全体のスキルアップを図る

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保健計画の作成及び振り返り、嘱託医へ健診の依頼連絡、当日の手伝い、検体取りまとめ・投函、書類のチェック・ファイリング、室内・戸外のハザードマップ作成・見直し・変更
安全対策係	毎月の避難訓練計画、消防署へFAX、保護者宛お知らせ、

	玩具破損チェック、室内外の危険箇所チェック、自主点検表準備、事故防止委員会議事進行
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回の職員訓練を行う
食品衛生責任者	保育園の給食、食育に関する取り組み、給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理 他
畑係	ファミリー菜園の申し込み 年間農業計画の遂行状況の確認や整備、畑の管理
生き物係	飼育全般に対する管理
備品係	備品の整理および管理、発注の取りまとめ

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	計画、準備の状況確認、作業の振り分け、当日の進行 他
運動会・生活発表会係	計画、準備の状況確認、作業の振り分け、当日の進行 他
入卒園式係	計画、準備の状況確認、作業の振り分け、当日の進行 他
写真・アルバム係	行事ごとの写真の取りまとめ（毎月）、卒園アルバム製作
子育て支援係	地域の方へお知らせの発信、年間予定に基づいた企画、準備 当日の進行、相談の受け答え、書類記入

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	・新しい環境に慣れ、生活リズムを整える。 ・子どもの自我の発達を受け止め、安定した人間関係を築く。
	下半期 0～1歳児	・身近な環境に興味や関心をもって関わり、様々な体験を積み重ねる。 ・発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・異年齢での大きな集団で過ごし、自分以外と多くの関わりを持つことで好奇心が育つ。 ・年長児が3歳児と共に生活する中で、優しく接すること、自分が知っているこ

		とを教えるなど年長児としての自覚をもつ。
	下半期 2～5歳児	・異年齢児で活動を行う中で、互いに刺激を受け合いながら自分達で課題を解決する力が身に付き、相手の気持ちに気付くことができる保育を行う。友だちとの間で様々な葛藤を経験しながら自分たちで約束やルールを作っていく保育を行う。 ・集団の中の自分という存在を受け止め、自分自身と他者の良いところを認められるようになる。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	6月20日と11月21日に実施予定

〈2〉年間行事計画

- ・ 2025年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	家庭との連携を図りながら、保育者・調理員など全職員がプロとしての専門性を活かしながら、共に食を営む力の基礎を作る。 家族や先生、友達と一緒に楽しい食事の時間にする。 食事にもマナーがある事を知らせる。
	実践予定内容	低年齢児の保護者向きに講習等を設け、食の大切さを理解してもらう。
2	計画・ねらい	自分たちで栽培し、調理したものを食べることで、食の楽しさ・大切さ、自然の恵み、命の大切さ、食の循環サイクルを知り、いろいろな食材に感謝の気持ちを持って食する。
	実践予定内容	自作の堆肥を使って、畑・プランターでの栽培に注力する。 畑やプランターでの栽培・クッキングだけでなく、収穫した野菜を、図鑑などですぐに調べられるなどの環境を整える。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回(6月・11月)
歯科検診	年1回(6月)

保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	毎月の身体測定、手洗いうがい指導、歯磨き指導等
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 夏季・・・ヘルパンギーナ・手足口病・咽頭結膜炎 冬季・・・インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎（ノロウイルスなど） 溶連菌感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	該当者なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在9名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については6月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在3名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については9月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	主に5歳児を対象に性教育指導 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月10日

健康管理	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	棚の上の整理整頓、清掃の他、子どもたちがいつでも気持ちよく生活できるようになっているか、自らが生活することを考えながら清潔な環境を整える。
	実践予定内容	週1回、全職員が自分の担当する室内の環境整備を行い、子どもたちが安全に生活できるか確認する。 全職員が直ぐに片づける習慣をつける。
2	計画・ねらい	玩具は発達状態に合わせたものを準備し、いつでも好きな遊び、好きな玩具が使える状態にしておく。 室内環境を都度見直す際、玩具の適正も見直す。
	実践予定内容	日々、早遅番による園内点検を行う。 一月内で数回ミーティングを行い、意見交換しながら室内環境を変えていく。
3	計画・ねらい	副園庭となっている蕨北町公園とそれ以外の公園の安全面、衛生面（ゴミやタバコの吸殻の始末）などを特に注意すると共に、散歩時も常に環境面に留意する。
	実践予定内容	戸外活動の際は、子どもたちが遊び始める前に、公園内のゴミ拾いを実施し、遊具などが壊れていないか等の確認を行う。 危険箇所がある場合は、ハザードマップを更新し、全職員に共有する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	全体を通して法人のマニュアルに従って行動する。過去の事例や予測される事故は職員全員周知の上、事故に発展することがないように注意喚起する。しかし、必要以上に危険回避をすることは、子どもの「乗り越える力」「生きる力」を損なうこ
---	--------	---

		とにもなりかねないので、職員全員の総意のもと意識の統一を図る。
2	実践予定内容	安全管理係を中心に日頃より防犯に対する意識を高める。災害は突然に起こるものなので、日頃からシミュレーションを行い、避難訓練を有効に活用する。
3	実践予定内容	事故・怪我においては心身共に苦痛をおった子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応えることが重要である。どんな小さな怪我でも保護者に伝え忘れないようにする。また、前日のどんな小さな怪我（発熱も含む）も登降園ボードに記入することにより、翌日の担当保育者が保護者及び子どもに声を掛け、状況を把握するようにする。
4	実践予定内容	防犯に対する訓練は1年に2回行っているとはいえ、日々の生活の中で常に意識することが重要である。散歩時における対応や園内における対応の仕方など会議で話し合い、対応の仕方を共有する。
5	実践予定内容	光化学スモッグについては、県及び市の情報を素早く園内及び園外にいる職員に周知する。特に園外にいる職員に対しては、「素早く日陰に行く」「保育園に戻る」などの対応を考えるよう、日頃から注意する。また、園内に居る場合にも窓を閉めるなど、子ども達の健康状態に留意する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、近隣の中学校や依頼のあった高校生の体験学習を積極的に受け入れる。また、保育養成校の実習の受け入れや地域の方のボランティアなども受け入れる。

1	実践予定内容	子ども達の生活の姿を全体的に捉え、乳幼児の実態、保育者の役割、保育の流れについて理解してもらう。
---	--------	--

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2025年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇とおもてなし ※毎月園長大学®・保育士大学から適切な講座を視聴し、ディスカッションを行う。 ③ 虐待防止研修	・おもてなしマナーの習得。 ・正しい言葉遣い、やさしい日本語が使えるようになる。
5月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	・保護者対応の振り返りと、子育て支援

		② 子育て支援	の在り方について学ぶ。 ・子育て支援を行う為の地域交流を活性化させるための話し合い。
6月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム	・なゼリズム体操が良いのか？基礎知識の習得。 ・伴奏上達のための練習。
7月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 救命救急・応急手当	・保育園で発生しやすい怪我や病気の応急手当方法を学ぶ。
8月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩について	・子どもたちが生きる未来の在り方とは？その為の保育を考える。
9月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 畑活動について	・子どもたちが生きる未来の在り方とは？その為の保育を考える。
10月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 乳幼児期に大切に育みたい力とは ③ 虐待防止研修	・保育現場で子どもに育むべき力・子どもの望ましい未来とは？を学ぶ。
11月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 性教育	・幼児期の性教育をどの様に行えばよいのか、具体的に学ぶ。
12月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校接続について	・小学校接続を踏まえて、乳幼児期に大切な育みたい力とは？何かを学ぶ。 ・小学校接続カリキュラムの重要性を再確認する。
1月30日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 一年を振り返って…	・個々で振り返りをし、次年度へ向けての計画を練る。
2月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度への策定	・今年度を振り返り、次年度へ繋げていく。
3月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度への策定	・次年度の行事などを策定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

[illegible]

育ての質を上げる 会議)												
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月～11月までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターシッ	希望するスタッフが応募											

＜4＞スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

＜1＞今年度方針・テーマ

様々な行事を通して地域の方々と関りを深め、子ども達一人ひとりが地域に愛される存在になるよう計画し実践する。

子育てを家族間で行う事で育児不安が高まる為、地域イベントや親睦会を通じて保育園を利用してもらい、困りごとを相談したり助け合ったりし、日々の不安を取り除いていく手助けを行う。また、地域で子どもを育てる“共育ち”を行う事で、子どもの社会性を高め、新しい価値観や多様性を学ぶ機会も増え、生活の質を向上させます。

＜2＞具体的な地域交流計画

活動行事	詳細
どろんこ祭り	年1回 集客目標：150名
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：わらび公園にて 集客目標：10名
商店街ツアー	週1回
世代間交流	乳幼児の様子に合わせ、高齢者福祉施設や近隣住民との交流を企画し、日々の保育活動の中で積極的に交流を行う。 ・小中高生の職場体験や幅広い年齢層のボランティア受け入れを行う。

異年齢交流	主に3～5歳児は日常的に異年齢保育を行い、年少児と年長児の生活の中での関わり合いが密になるよう工夫する。 ・1～2歳児は子どもの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、様々な人との関わりが充実するよう配慮する。
地域拠点活動	地域親子に向けて、子育て支援として「自然学校・芸術学校・寺親屋・自然食堂」の開催、子育ての相談を行う。
銭湯でお風呂の日	月2回〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校と交流を図り、連携を進めていく。アプローチカリキュラムに則り、子どもの発達や情報交換をはじめ、子どもの姿を共有できるように働きかけていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	蕨市立北小学校 1年	3名予定	授業参観(北小教室)	職員間交流
10月頃	蕨市立中央小学校 1年	10名予定	学校公開(中央小校庭)	子ども間交流
10月頃	蕨市立南小学校 1年	10名予定	学校公開(南小校庭)	子ども間交流
10月頃	蕨市立北小学校 1年	10名予定	学校公開(北小校庭)	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

・個別配慮を要する子ども達の支援は、個別計画を立て保護者と共有しながら子どもをみるようにする。
・集団生活を送るにあたり、その子にとっての計画であるが、他の子たちも含めての育ち合いの視点を考える。その子が社会で生きていくために保育園で丁寧に関わることにより少しでも安心して生活ができるよう援助する。

発達の偏りというべきその子の能力の低い部分だけに焦点をあてて矯正するのではなく、能力の高い部分を引き出すように援助し、足りないものを補おうとする努力ではなく、伸びる部分を延ばすことにより、その他の部分の力に変えていく援助を考える。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者:11名予定)

・園児全員の現在の発達経過報告、特に注意し、援助が必要な子どもの現在の状況と今後の対応について話し合い、援助の仕方の共有を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

・特に幼児クラスにおいては就学を見据えて必要に応じて関係機関との連携を図っていく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 集客目標:5名
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 集客目標:5名
自然食堂…親子ランチ交流	隔週(土) 10:00～12:00 集客目標:5名
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎月1回 10:00～12:00 集客目標:5名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:わらび公園にて開催 集客目標:10名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年9月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻:9時00分

自己評価終了予定時刻:17時00分

自己評価実施予定者：全職員対象

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none">・地域に根付いた子育て支援の拡充。・資質向上・専門性向上の為の学びの場の増加により、リーダー格の職員を増やす。・経験できる物的環境を提供。・食育活動を更に活発化させ、食の循環・命を頂く体験を多く行う。
	振り返り	<p>異文化交流 準備不足により、十分な取り組みができなかった。次年度は、子どもたちに「何を伝えたいのか」という目的を明確にし、計画に落とし込む。また、保護者との連携を深め、支援につなげていく。</p> <p>職員の専門性向上 最低限の研修は実施したが、職員が主体的に学べる環境づくりが不足していた。次年度は、個々の成長段階に応じた研修機会を確保し、専門性を高める仕組みを整える。</p> <p>体験の場の提供 十分な準備ができず、子どもたちに多くの経験を提供する機会が限られた。次年度は、体験活動に必要な環境を事前に整え、計画的に進めていく。</p> <p>食育活動 畑活動は順調に進んだが、食育体験の「ねらい」が曖昧になる場面があった。次年度は、目的を明確にし、計画段階でしっかりとねらいを設定して取り組む。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2025年度	目指す姿	地域性を活かし、外国籍の方々との国際交流を促進し、外国籍保護者への支援を充実させる。 資質向上・専門性向上のための学びの場を増やし、職員のスキルアップを図る。 食育の取り組みを深化させる。
	重点施策	国際交流の推進 外国籍の保護者・地域住民を招き、国際色豊かな行事を開催し、異文

		<p>化交流を深める。あわせて、外国籍保護者が安心して子育てできる支援体制を整える。</p> <p>職員のスキルアップと育成</p> <p>経験を積んだ職員が中心となり、新卒・若手職員の育成に取り組む。</p> <p>「もったいないプロジェクト～いのちをいただく～」の実施</p> <p>食への興味を高めるため、食材の活用方法や命の大切さを学ぶ機会を提供する。</p>
2026年度	目指す姿	<p>地域に根付いた保育園としての基盤を確立する。</p> <p>働きやすい職場環境を整備する。</p>
	重点施策	<p>地域支援の強化</p> <p>地域の子育て支援活動をさらに拡充し、地域に開かれた保育園を目指す。</p> <p>職場環境の整備</p> <p>職員の働きやすさを向上させるため、環境改善に取り組む（業務効率化、福利厚生の充実など）。</p> <p>食育活動の継続</p> <p>2025年度の取り組みを発展させ、子どもたちの食への関心をさらに深める。</p>
2027年度	目指す姿	<p>地域で最も信頼される「地域No.1保育園」を目指す。</p>
	重点施策	<p>安定した園運営</p> <p>地域に求められる保育園として、持続可能な運営体制を確立する。</p> <p>食育活動の定着</p> <p>食育の取り組みを園の文化として根付かせ、継続的に実施する。</p>

以上